

り払うと共に募金を集めます。

このようにして昭和43年4月に、中佐の母堂である83歳のまつ枝刀自(年
老いた婦人への尊敬を込めた呼び方)
と、松尾中佐の実姉・佐伯ふじさんと

松本博士の3人が、オーストラリアを
訪問しました。これをオーストラリア
国民は熱狂して歓迎し、到着した日の
現地新聞では一面トップに「勇者の母」
を報道しました。

一行は29日朝、オーストラリア海軍
のランチで湾内の特殊潜航艇が沈没し
た付近に案内され、6人の戦死者を慰
霊。その後一行はシドニー中心部にあ
る戦争記念碑に花束を捧げ、オースト
ラリア軍の英霊に黙祷を捧げました。
そして5月1日にはキャンベラに飛
び、戦争記念館を訪れました。マック
グレース氏の後任、ランカスター館長
が出迎え、芝生に安置している特殊潜
行艇に案内されました。

まつ枝刀自は報道カメラの放列の
中、恐る恐る近づき艇を愛撫しつつ外
側を一周し、潜望鏡の真下、恐らくは
松尾艇長が座っていたであろう箇所
に花輪と故郷の菊池のお神酒(みき)を
供えました。

続いて、記念館に入ると、館長がま
つ枝刀自を椅子に座らせ、松尾艇長が
最期まで腹に巻いていた血染めの千人
針を抱かせたのです。刀自は小刻みに

ふるえ、千人針の上にポタポタと涙を
落としました。展示されていた千人針
や搭乗帽などの遺品は、ゴートン首相
や関係者の特別のほからいで、まつ枝
刀自に返還されました。

そして5月2日に海軍省にスミス幕
僚長を訪ね、続いてゴートン首相とも
会談しました。まつ枝刀自は「豪州海
軍が戦争のさ中に、わが戦士に示され
た行為は、英国騎士道の発露であり、
心から感謝します」と挨拶しました。

幕僚長は「それ(海軍葬)は、日本
人が示した勇敢さに対する当然の義務
です」と答えました。またゴートン首
相は「お母さんは、立派な子息を持た
れて、うらやましい気がします。あな
たのお子さんは我々オーストラリア国
民に、真の勇氣とは何であるか、真の
愛国心とは何であるかを、身をもって
示してくださいました。心からお礼を申し
上げます」と述べました。

このようにしてまつ枝刀自一行の
オーストラリアの旅は、オーストラリ
アの人々の称賛と熱烈な感動により終
えることができました。

それから概ね半世紀が経った平成26
年7月、安倍首相がオーストラリアを
訪問し、8日に豪州キャンベラにある
国会議事堂で演説をしました。その中
で安倍首相は次のように述べました。

「1968年のことでした。一人の日
本女性を皆さんが招いてくれたこと
に、私はいまも、心打たれるものを感
じます。83歳になる松尾まつ枝さんは、
招きを受けてお国を訪れ、亡き息子を
偲んで、シドニー湾に日本の酒を注ぎ
ました。第2次大戦中お国の攻撃を凶
り、湾に沈んだ小さな潜水艦に乗り組
んだのが、松尾さんの子息でした。そ
の勇猛を長く記憶に留めた皆様は、勇
士の母を日本から呼び寄せてくれた
のです。なんたる寛容でしょうか。

Hostility to Japan must go. It is better to
hope than always to remember. (日本
に対する敵意は、去るべきだ。常に記
憶を呼び覚ますより、未来を期待する
ほうがよい)。戦後、日本との関係を
始める際、R・G・メンジーズ首相が
語った言葉です。再び日本国と日本国
民を代表し、申し上げます。皆さんが
日本に対して差し伸べた寛容の精神
と、友情に、心からなる、感謝の意を
表します」

いかがですか? 国を愛する青年が
勇氣をもって遠く離れた地に小さな潜
航艇で攻撃しました。その勇氣と愛国
心に感動した敵国オーストラリアの
人々は、自国の勇者と同様に海軍葬で
この敵国兵を用い、この潜航艇をオー
ストラリア連邦戦争記念館に展示しま

した。そして戦後、その勇者の一人の
母を日本から呼び寄せます。このこと
をオーストラリアの首相はじめ多くの
人々が「勇者の母来たる」と歓迎しま
した。そして後年、日本の首相はこの
寛容なオーストラリア国民に感謝しな
がら、今後の日本とオーストラリアと
の友情を誓ったのです。

自分の国を愛することは当然のこと
です。そして他国の人も自分が生まれ
た国を愛しています。このことが理解
できれば、真の愛国者は他国の愛国者
を尊敬することが出来るのです。愛国
心は決して排他的なものではないので
す。そしてその勇氣と愛国心に感動し
た人々と、そのことに感謝した国民は、
ともに両国の友情を産みだしているの
です。

【参考資料】

- ・名越二荒之助著「大東亜戦争を見直そう」出版社・明成社
- ・豪州国会両院総会安倍内閣総理大臣演説(平成26年7月8日) 首相官邸ホームページ
- ・ブログ松山昭彦「さくらの花びらの日本人よ誇りを持とう」、「軍神・松尾敬字とその母」
- ・ブログ「西村慎吾の時事通信」、「松尾敬字海軍中佐、二十六歳」